

令和 8 年度 スッキーニ 技術情報 No. 3

大船渡農業改良普及センター
電話：0192-27-9918
FAX：0192-27-9936

【共通】

- ① 大雨や台風に備えましょう。**大雨対策**には**排水溝や額縁明渠の設置、防風対策**には**支柱やソルゴー等の障壁作物の利用、防風ネットの設置**が有効です。
- ② 梅雨時期の病害防除は**降雨前の防除を基本**とし、病気の蔓延を防止しましょう。
【抑制作型の導入を！】
- ③ **10月まで収穫**できる**抑制作型を導入**し、収益向上に取り組みましょう。高温期の育苗は徒長しやすいため、温度管理やかん水に注意しましょう。

1 大雨対策

今年は6月21日に梅雨入りし、6/23発表の3カ月予報では、7～9月の降水量が平年並から多い予報となっています。**大雨に備え、排水溝や額縁明渠を設置**しましょう。台風や大雨後は、**ほ場に溜まった水を直ちに排水**するとともに、**付着した泥土を洗い流して**ください。

2 防風対策

ズッキーニは、**浅根性で葉が大きいことから、風に弱く倒伏しやすい**ため、風当たりの強いほ場では、**防風ネットやソルゴーなどの障壁作物**を用いて、防風対策を行いましょう。

3 病虫害防除対策

防除予定日に雨が予想されている場合は、予定を前倒して**降雨前に防除**を実施します。また、雨が続く場合は、**防除間隔を短くする、雨の合間に防除を行う**など、**病気の蔓延を防止**しましょう。

(1) アブラムシ類

若葉の裏側、蕾、花に寄生し、吸汁加害するほか、**ウイルス病を媒介**

します。罹病株はモザイク症状を呈し生育が停滞します。

防除暦を参考にして、**生育初期から防除**を実施しましょう。また、ウイルス病の罹病株は、直ちに抜き取り処分して、他株への感染拡大を防ぎましょう。



図1 葉裏に寄生したアブラムシ



図2 ウイルス病の罹病株

(2) ウリハムシ

越冬成虫が春にウリ科野菜周囲の地中に産卵し、幼虫は根を、成虫は自分の体を中心にして円を描くように葉を食害します。

ほ場周辺の除草や捕殺、他の害虫との同時防除で対応します。



図3 ウリハムシの成虫



図4 ウリハムシによる葉への食害

(3) 軟腐細菌病（腐敗）

病原細菌は、**土壌中に存在し、高温多湿条件で増殖**します。雨によってほ場に広がり、傷口や害虫の食害痕から植物体に侵入し、被害が発生します。

通路への敷きわらにより泥の跳ね上がりを防ぐとともに、降雨前防除の実施、圃場排水・草勢維持に努めましょう。また、**罹病株**



図5 軟腐細菌病により腐敗した罹病株

は速やかに抜き取り、ほ場外で処分しましょう。

(4) うどんこ病

最初は下葉に白い粉をまぶしたようなカビが発生し、のちに上位葉や茎にもみられるようになります。

高温乾燥や草勢低下によって発生しやすいので、草勢の維持に努めましょう。



図6 うどんこ病の病斑

4 抑制作型の栽培管理

(1) 直播：播種晩限は8月上旬頃

適度な土壌水分がある状態で、1穴に1粒ずつ、深さ2～3cmに播種、覆土し鎮圧します。播種位置がくぼんでいる状態では水が溜まりやすいため、覆土後はやや盛り上がった状態とします。

欠株の補植用として、セルトレイ1枚程度に予備の苗を育苗しておきましょう。

(2) 育苗管理：最終の定植時期は8月上旬頃

抑制作型は高温期の育苗となり、**苗が徒長しやすくなります**。梅雨明け後に播種する場合は**状況に応じて遮光等を行うなど、発芽後の気温が25℃以下**になるよう管理します。

(3) 摘花

6節以内に着花した雌花は不良果となりやすいため、開花前に摘花を行い、草勢維持と後半の収量を確保します。

(4) 追肥

定植30日後頃から開始し、**2週間おきに窒素成分で3kg/10a**を目安に施用します。(野菜追肥 S535 の場合、20kg/10a)

果実の尻太りや蕾の曲がりは草勢低下の合図です。草勢が低下する前に追肥をしましょう。

(5) 摘葉

古い葉や果実を覆っている葉を摘葉します。一度にたくさんの摘葉を行うと草勢が低下するので、こまめに行ってください。

葉柄が水平～下向きになっている葉の葉柄部を長く残し、葉のみ摘除す

ることで、**株の倒伏や腐敗防止**になります。

葉柄が上向きに伸びた葉は、雨水が入りやすく、病害発生の原因となるため、摘葉は控えます。



図7 摘葉する葉
(矢印部分で摘除)



葉の部分だけを切除

倒伏や株元の腐敗
を防止

図8 摘葉の仕方

(6) 高温対策

直近の3か月予報(6月23日気象庁発表)によると、7月～9月は気温が平年並～平年より高い見込みです。**マルチの設置は、降雨後等土壌水分を確実に確保してから**行いましょう。また、**定植後は株元かん水を行い、活着を促進**しましょう。抑制作型では、高温時に圃場準備、定植を行うため、特に注意が必要です。

★いわてアグリベンチャーネットメールサービス会員募集中

農作物技術情報や農村地域の情報を幅広く提供する岩手県公式サイト「いわてアグリベンチャーネット」のメール会員を募集します。

登録方法は以下のホームページをご覧ください。

URL: <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/maillinglist.html>

★6月1日～8月31日は農薬危害防止運動実施中

使った農薬は使用履歴を記帳し、適正使用を徹底しましょう！

★クマにご注意ください！

各地でクマによる人身被害が多発しています。農作業に当たっては、クマとの不意の遭遇に十分注意してください。

★農作業中の熱中症を予防しましょう！

予防のポイントは、①暑さを避ける、②こまめな休憩と水分補給、③単独作業は避ける、④熱中症アイテムの活用です。